

## 第 23 次東京都観光事業審議会（第 1 回）

日時:令和 3 年 5 月 21 日（金）午後 1 時から  
場所:都庁第一本庁舎 42 階特別会議室 A

午後 1 時開会

**【築田観光部長】**

お待たせいたしました。定刻より前ではございますが、オンライン出席の御予定の委員の皆様もパソコン等の準備が整ったということでございますので、これより「第 23 次東京都観光事業審議会」を開会させていただきます。

本日は御多忙の中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。

私は事務局を務めさせていただきます東京都産業労働局観光部長の築田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。着座にて失礼いたします。

会長が選任されるまでの間、進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、開会に当たりまして、副知事から御挨拶させていただきます。

**【多羅尾副知事】**

東京都副知事の多羅尾でございます。

皆様方におかれましては、このたび第 23 次東京都観光事業審議会委員への就任をお引き受けいただきまして、また、本日は大変お忙しい中を、本審議会に御出席いただきまして誠にありがとうございます。

今回の東京都観光事業審議会は、任期満了に伴う委員の改選後初めての審議会となります。新たに御就任いただきました皆様におかれましては、本審議会において東京都の観光行政にお力添えを賜いますよう、よろしくお願いを申し上げます。

また、継続して委員に御就任いただいた皆様におかれましては、かねてより熱心な御審議を賜り、心から御礼を申し上げます。引き続きよろしくお願いいたします。

東京都は、2019 年 2 月、本審議会から貴重な御意見を頂戴しながら「PRIME 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン～東京 2020 大会に向けた重点的な取組～」を策定し、施策を推進してまいりました。しかしながら、御承知のとおり、昨年から続く新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、観光を取り巻く環境は非常に厳しいものとなっております。こうした状況の中、観光産業を再び成長軌道に乗せ、さらなる飛躍へと導いていかなければなりません。そのため、コロナ禍において生まれた新たなニーズに対応し、新しい成長へとつなげていくことが重要でございます。

本年 3 月に策定した「『未来の東京』戦略」では、新型コロナによる人々の価値観や社会のありようの変化を展望し、構造改革とサステナブル・リカバリーの 2 つの大きな考え方を軸に据えて、政策を展開していくこととしております。

観光分野では、2030 年に向けた戦略として、新しい日常における観光スタイルを確立するとともに、インバウンド回復を見据えた戦略的な魅力発信コンテンツの開発等を行うことで、観光産業の持続的な成長を実現していくことといたしております。

このような状況を踏まえ、今年度、プランの改定を行い、より効果の高い施策を盛り込むことが東京の観光産業の明るい未来のため大変重要と認識しております。

そこでプランの改定に当たり、ここにお集まりの地域を代表する皆様や観光関連の団体企業の皆様、また、観光に豊富な知見を有する皆様の貴重な御意見や御指摘を賜ることができれば、大変幸いと考えております。

結びに当たりまして、今後とも東京の観光振興のため、御指導を賜りますよう心からお願い申し上げます。簡単ではございますが私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【築田観光部長】

ここまでの間で、オンラインで出席いただいている委員の皆様、音声の状況が悪いとか、こちらの声が聞き取りにくいとかは大丈夫でございますでしょうか。

では、このまま進めさせていただきます。

本日は第 23 次委員による初めての審議会でございますので、委員の皆様の御紹介をさせていただきます。まず、会場の委員の皆様を御紹介し、その後、オンラインで出席の委員の皆様を、お手元でございます資料の 3 枚目の資料 2 の名簿順に御紹介させていただきたいと存じます。

それでは、会場から御紹介させていただきます。

帝京大学経済学部観光経営学科学科長・教授、大下茂委員です。

日本航空株式会社旅客営業本部観光推進担当部長、白石将委員です。

株式会社 JTB 執行役員コーポレートコミュニケーション・ブランディング担当・ダイバーシティ推進担当、高崎邦子委員です。

一般社団法人日本コンベンション協会副代表理事、武内紀子委員です。

株式会社 ANA 総合研究所「元気な日本」創生事業部執行役員事業部長、藤崎良一委員です。

MPI ジャパンチャプター名誉会長、山本牧子委員です。

東日本旅客鉄道株式会社鉄道事業本部観光戦略室長、渡辺厚委員です。

東京都議会議員日本共産党東京都議会議員団、原田あきら委員です。

続きまして、オンラインで御出席の委員の皆様を御紹介させていただきます。

日本政府観光局海外プロモーション部欧米豪・中東担当部長、伊与田美歴委員です。

神奈川大学国際日本学部国際文化交流学科教授、高井典子委員です。

一般社団法人日本パラリンピアンズ協会副会長、日本郵船株式会社 ESG 経営推進グループサステナビリティイニシアティブチーム、田口亜希委員です。

一般社団法人ジャパンショッピングツーリズム協会代表理事、新津研一委員です。

東京都議会議員都民ファーストの会東京都議団、中山ひろゆき委員です。

東京都議会議員都民ファーストの会東京都議団、森村隆行委員です。

東京都議会議員東京都議会自由民主党、田村利光委員です。

東京都議会議員都議会公明党、斉藤やすひろ委員です。

三鷹市長、河村孝委員です。

奥多摩町長、師岡伸公委員です。

大島町長、三辻利弘委員です。

また、本日、御欠席の委員が 4 名いらっしゃいます。

東京都ホテル旅館生活衛生同業組合理事長、工藤哲夫委員。

一般社団法人日本ホテル協会副会長、定保英弥委員。

東京商工会議所地域振興部長、平澤哲哉委員。

荒川区長、西川太一郎委員。

以上、計 23 名の委員の皆様にご就任いただきました。本日は 19 名の方に御出席いただきありがとうございます。

なお、委員の任期につきましては、本年 5 月 15 日から令和 5 年 5 月 14 日までの 2 年間となっております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

続きまして、事務局側出席者の紹介をさせていただきます。

産業労働局長の村松明典でございます。

産業労働局次長の坂本雅彦でございます。

観光振興担当部長の小林あかねでございます。

その他の出席者につきましては、お手元の座席表に記載のとおりでございます。また、本日は東京都の関係各局の職員がオンラインで傍聴させていただいております。

そして、改めまして、私が観光部長の築田真由美でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

次に、お手元にお配りしてございます資料の確認をさせていただきます。

お手元には議事次第、座席表、資料 1 から 6 がございます。御確認をお願いいたします。

続きまして、本日の議事の進行に関するお願いです。

本日は会場に御参集いただいている委員の皆様とオンラインで御参加いただいている委員の皆様がいらっしゃいます。オンラインで御参加いただいている委員の方につきましては、発言されるときのみマイクをオンにしてください。それ以外はマイクをオフにさせていただきますようお願いいたします。

また、会場の委員の方は、御発言の際、マイクの右側のボタンを押してから御発言いただきますようお願いいたします。御発言が終わりましたら、再度右側のボタンを押してマイクをオフのほうをお願いいたします。

次に、当審議会の会長を選任したいと存じます。お配りしております資料 1、審議会条例第 5 条第 1 項の規定に基づきまして、会長は委員の互選により選任することとなっております。どうか御推薦をお願いいたします。

#### 【武内委員】

会長には大下委員を推薦いたします。

#### 【築田観光部長】

ただいま武内委員より、大下委員を会長にとの御推薦がございました。委員の皆様、いかがでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

#### 【築田観光部長】

御異議なしとのことですので、大下委員に会長をお願いしたいと思います。それでは

大下委員、会長席のほうにお移り願います。

(大下委員、会長席へ移動)

**【築田観光部長】**

それでは、会長より一言御挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いたします。

**【大下会長】**

たった今「異議なし」というのはあまり声が大きくなかったので、異議がおありの方もいらっしゃるかと存じますが、会長に御推挙いただきました帝京大学の大下でございます。第 22 次の審議会の取りまとめ役を仰せつかった経験を基に、浅学の身ではございますが務めさせていただきます。

本日御参集いただいている皆様方におかれましては、コロナ禍で一言では言い表すことのできない苦難あるいは苦境に日々対峙されていることと御推察申し上げます。コロナ前の観光事業・観光産業というものは堅調な推移をたどってきたわけでございますが、後ほど事務局から御説明があると思いますけれども、大きな痛手を受けることとなりました。

第 22 次の審議会の中では、多発しておりました自然災害に対して、観光分野においても、観光危機管理に備えておくべきという議論もいただきまして、プランに盛り込んだ経緯がございました。ただ、今回のコロナ禍にあつて、その議論の内容の想定を大きく超えたものでありまして、人の移動の制限がもたらした生活全般への影響あるいは経済への影響は計り知れないものであつたわけでございます。

一方で、観光行動の人々の希求、願望が大切なものであることも浮き彫りにされました。感染拡大の一定の収束を多くの人たちが願い、これまでの日常で行っていた様々な活動が再開されること、これは多くの人たちが求めているものでございます。当然ながら、観光の潜在的欲求に対応すべく、それへの備えということを実行することが、今求められているものではないかと思っております。

ドイツの宰相でありましたビスマルクが「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」ということを提唱されました。東京都におかれましては、今年の 3 月に取りまとめられた「『未来の東京』戦略」の中でも、後藤新平あるいは渋沢栄一翁の未来に通じる思考あるいは思想を範にしたような、10 年先、20 年先の未来の東京が描かれてございます。

本日は緊急事態宣言の中で開催となりました。観光分野におきましては、現状を直視した上で、その回復への施策を考えることはもちろんでございますが、コロナ感染予防によって変化したライフスタイルと、もう一方では変わらない人々の希求、願望を見極めた上で、将来の望ましい東京の観光の姿に近づけるように、プランの中に盛り込むべき御提言、ヒントを賜ればと思っております。今回、コロナ禍の中にあつても開催されたという諮問の重要性を改めて受け止めたいと思っております。

今回は、審議会会場、オンラインと両方で、ハイブリッド型の審議会の運営となります。私もハイブリッドはあまり不慣れなものでございますので、事務局の皆様方の御協力もいただきながら円滑に進めることができればと思っております。

限られた時間ではございますが、諮問の内容を共有して、まず 1 つ目は東京都の観光の置かれ

ている現状から脱却する道筋を考える。2 つ目は、将来に望まれる東京観光に向けた備えについて、皆さんから忌憚のない御意見を賜りますことをお願いして、御挨拶とさせていただければと思います。本日はよろしくお願ひ申し上げます。

**【築田観光部長】**

ありがとうございました。

それでは、以後の議事進行は大下会長にお願いしたいと思ひます。会長、よろしくお願ひいたします。

**【大下会長】**

それでは、初めに副会長の選任を行いたいと思ひます。副会長につきましても、会長と同様に審議会条例第5条第1項により、委員の互選により選任することになっております。どなたか御推薦がありましたらお願いしたいと思ひます。

**【武内委員】**

会長に御一任いたします。

**【大下会長】**

よろしいですかね。今、武内委員から一任という声がありました。私といたしましては、高崎委員に副会長をお願いしようと思ひますが、皆様いかがでございますか。

(「異議なし」と声あり)

**【大下会長】**

今は力強い「異議なし」がございました。「異議なし」とのことでございますので、高崎委員に副会長をお願いしたいと思ひます。それでは、高崎委員、副会長席にお移りいただければと思ひます。

(高崎委員、副会長席に移動)

**【大下会長】**

それでは、高崎副会長より一言御挨拶をいただければと思ひます。

**【高崎副会長】**

ただいま御指名をいただきました JTB の高崎でございます。

甚だ僭越ではございますけれども、御指名でございますので、大下会長を補佐しながら、皆様のお力をお借りして副会長を務めさせていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

前回の審議会の後、まさしく今、コロナ禍ということで、世の中、世界が大きく変わっております。ツーリズム産業というのは、その中でも非常に大きな影響を受けた業界の一つであると思っております。ただ、このコロナの中で、改めてツーリズム産業の裾野の広さを実感いたしましたし、また、交流というのは、やはり人間の本質的な欲求であるのではないかと心から感じているところでもございます。

ワクチンも進んできておりまして、アフターコロナの状況になるというのも、もう間近ではないかと思っておりますし、期待をしているところでもあります。ただ、この後、元の状態の観光産業に戻るのではなくて、先ほどもお話がございましたサステナブル・リカバリーということで、持

続可能な、持続的に成長できる観光産業というところにしっかり戻していく、そのためには一部の事業者や消費者の方にだけその効果がいくのではなくて、その裾野の広がり、先、しっかりそこまで、事業の効果がでていくような産業にしていかななくてはいけないのではないかと考えておりますので、ぜひここでの御議論、皆様の御意見もお伺いをしながら、しっかりまとめて政策に反映をしていただくことができればと思っております。ぜひ皆様の御協力、お力をお借りして、微力ながら務めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

**【大下会長】**

ありがとうございました。

それでは、議事に入る前に本審議会の公開について確認をさせていただきます。

本審議会の運営要綱第6では、原則公開となっております。本審議会も公開とさせていただきますことよろしいでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

**【大下会長】**

特に異議がなかったようでございますので、本審議会は公開といたします。

次に、議事録署名人の指名をいたしたいと思っております。

私も署名をいたしますが、私のほかに武内委員をお願いをしたいと思っておりますが、いかがでございますか。

(「異議なし」と声あり)

**【大下会長】**

武内委員、よろしいですか。

**【武内委員】**

分かりました。

**【大下会長】**

先ほどのお返しではないのですが、よろしく願いをしたいと思っております。

それでは、これより議事に入りたいと思っております。

本日の議事につきましては、まず事務局のほうから御説明を願いたいと存じます。

**【築田観光部長】**

本日の議事は、東京都観光事業審議会への諮問についてでございます。本日は、多羅尾副知事が知事に代わり諮問いたします。副知事、どうぞよろしく願いいたします。

**【多羅尾副知事】**

東京都観光事業審議会条例第2条の規定に基づき、下記のとおり諮問いたします。

令和3年5月21日、東京都知事小池百合子。

よろしく願いいたします。

(多羅尾副知事、大下会長に諮問文手交)

### 【築田観光部長】

今回の諮問事項は、資料3の諮問文にありますとおり、都が今後策定する観光の実行プランに対する意見を求めるものでございます。

なお、大変恐縮でございますが、副知事は所用のため、これにて退席させていただきます。

### 【多羅尾副知事】

申し訳ございませんが、よろしく願いいたします。

(多羅尾副知事、退室)

### 【大下会長】

それでは、事務局より改めて諮問の趣旨を御説明いただきまして、その後、ごく簡単に配付資料の御説明を願いたいと思います。

### 【小林観光振興担当部長】

かしこまりました。それでは、事務局から御説明させていただきます。

初めに、ただいま副知事から大下会長に手交した諮問の内容につきまして、御説明申し上げます。資料3の「2 諮問の趣旨」を御覧ください。

都は、2019年2月、「PRIME 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン」を策定し、メリハリのある施策展開によりまして、国際観光都市としての実績を着実に積み重ねてまいりました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、世界の観光は過去に例のない移動の制約を受けており、日本国内の旅行にも大きな影響を及ぼしております。

一方で、身近な観光資源の価値の再認識や、デジタル技術を活用した観光など、新たなサービスも始まっております。

こうした状況におきましては、持続可能な回復を実現する「サステナブル・リカバリー」の観点から、東京の観光産業の復活に向けた施策を展開し、観光産業を再び成長軌道に乗せていくことが重要でございます。

そのため、現在のプランを改定し、新たなプランを今年度中に策定することといたします。

プランの改定に当たりまして、地域社会や観光関連団体、観光に関する御知見を有する委員の皆様から、御意見を賜りたいと考えております。

続きまして、資料4を御覧ください。前回の審議会以降の動向をまとめたものでございます。

2019年2月に策定しました①の現行のプランは、2020年度までを計画期間とし、3つのテーマに基づき重点的に取り組むべき施策を選定いたしました。

この計画期間中の2019年度、新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、観光産業にも大きな影響を及ぼしていることを踏まえまして、昨年11月、②の「ともにつくる新しい観光」を公表しました。

こちらは「東京の観光振興を考える有識者会議」の意見を取りまとめたもので、東京の観光産業の復活に向けた、ウィズコロナ時代の施策の方向性といたしまして「『新しい日常』への対応の着実な推進と段階的な誘客」「デジタル化の浸透による観光事業者の経営力の強化」「SDGsの視点に立った持続可能な観光の推進」などに取り組むことを提言しております。



続きまして、本年3月に公表いたしました③「『未来の東京』戦略」は、東京都の総合計画でございませう。

観光分野につきましては【2030年に向けた「戦略」】を「『新しい日常』における観光スタイルの確立」「ポストコロナを見据えたオールジャパンでのプロモーション」とするとともに【戦略を実行するための「推進プロジェクト」】といたしまして、魅力ある観光コンテンツの創出、体験・まち歩きスマート観光、オールジャパンでの戦略的な観光振興など、4項目を挙げております。

最後に④令和3年度の観光関連予算につきましては、こうした考え方の下「旅行者の誘客と受入環境の構築・発信」や「観光関連事業者の経営力の強化」など、総額169億円を当初予算に計上いたしました。

なお、令和2年度の観光関連の補正予算額は、総額41億円でございました。

続きまして、資料5を御覧ください。観光を取り巻く現状につきまして、主要なデータにより御説明申し上げます。

「1 都内観光消費額と経済波及効果」につきましては、観光産業は裾野が広く、幅広い産業に波及効果を生み出すと言われており、2019年は、都内観光消費額が6兆円超、生産波及効果は約11兆8千億円、雇用効果は約98万9000人と、過去最高となりました。

下段、「2 訪日・訪都外国人旅行者数」につきましては、2020年は、感染症の世界的な拡大により、訪日旅行者数は87%の減少となりました。訪都旅行者数は未公表ですが、同様の傾向になると見込まれております。

次ページを御覧ください。

「3 日本人宿泊数」につきましては、日本国内・都内とも、感染拡大により急減し、需要喚起策により上昇した時期もございましたが、現在は、御覧のような状況となっております。

都内につきましては、都民を対象とした観光促進事業「もっと Tokyo」を開始した昨年10月、コロナ後初めて250万人泊を超えております。

下段、「4 都内の宿泊需給の状況」につきましては、左側、都内の延べ宿泊者数は、2020年は約3000万人泊で、前年比62%減となっており、右の客室稼働率は35%となっております。

次ページを御覧ください。

「5 観光による消費額の推移」でございますが、左の外国人旅行者につきましては、前年比85%減の約7500億円、右の日本人旅行者につきましては、56%減の約9兆9000億円となっております。こちらも訪都旅行者消費額の推計は未公表ですが、同様の傾向になると見込まれております。

下段「6 観光関連事業者の新たな取組」でございますが、こうした厳しい状況下における、コロナ禍での社会変化に着目した取組を御紹介しております。

具体的には、安全・安心志向に対応した感染防止の取組の徹底、テレワークを促進するため、宿泊施設が実施する新プランや客室整備、旅行が抑制されている中で、自宅でも観光を楽しむことができるオンラインツアー企画など、環境変化に伴う新たなニーズに対応したサービスが展開されております。

次ページを御覧ください。

「7 訪日旅行の情報収集手段」につきましては、旅マエや旅ナカにおきまして、SNS や口コミサイトなど、インターネットを介した情報収集が定着しております。

下段「8 旅行業者のオンライン販売」につきましては、国内旅行会社による取扱高と販売比率は増加傾向にあります。

また、オンライン旅行の市場規模は、世界的にも増加しており、コロナ禍でデジタル化が加速する中、今後も、OTA 以外の旅行会社においても、インターネットでの広告や販売が進むものと考えられます。

次ページを御覧ください。

「9 国際旅行者の回復時期の見通し」につきましては、UNWTO の予測では、世界的な回復は、2023 年半ばから 2024 年末と見込まれております。

下段「10 コロナ終息後の訪日旅行」につきましては、訪日意欲は、アジアで 1 位、欧米豪で 2 位と、いずれの地域においても高くなっており、特に、衛生面への配慮や清潔などに期待が寄せられております。

次ページを御覧ください。

「11 訪都外国人の満足度」につきましては、2019 年調査時は、全ての項目で 2015 年調査を上回っており、受入れ環境の整備を進めてきたことが満足度につながったと考えられます。

なお、外国語対応能力の満足度につきましては、国別に差が生じておきまして、アメリカなど英語圏では総じて高くなっております。

下段「12 国際会議の開催件数の推移」につきましては、世界市場におけるアジア地域のシェアは、10 年間で約 1.5 倍に拡大しており、都市別では、東京は世界で 6 位、アジアでは 3 位となっております。

数年後の開催を目指す MICE の誘致競争は、コロナ禍においても継続していると言われております。また、コロナ禍ではオンラインを活用した MICE の開催も広がっており、MICE の誘致競争においても、デジタル化への対応が重要と考えられます。

新たなプランの策定に向けまして、この後、皆様から御意見をいただきますが、ただいま御紹介したような現状につきましても、御参考にしていただければ幸いです。

最後に、資料 6 を御覧ください。

新たなプラン策定に向けたスケジュールについてでございます。

本日、この審議会で委員の皆様からいただいた御意見を踏まえ、施策の検討を行いまして、本年 12 月を目途に中間のまとめを公表いたします。

第 2 回の審議会は、同じく 12 月に予定しており、中間のまとめに対する御意見をいただく予定としております。

あわせてパブリックコメントも実施した上で、来年 2 月頃、プランの最終版を公表してまいりたいと考えております。

事務局からの御説明は、以上でございます。

## 【大下会長】

ありがとうございました。

今、事務局から御説明がございましたように、今回の諮問は、今後、都が策定いたします「PRIME 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン」に対して、審議会に意見を求めるという内容でございました。

このプランそのものは12月頃の間取りまとめ、そして、来年の2月に最終版を公表するという予定になっておりますので、まさにこれからつくられるというものでございます。

本日は皆様から、日頃感じていらっしゃる東京の観光振興への思い、あるいはこの観光のプランにぜひ反映させたいという事項などがございましたら、お話しいただきたいと思っております。

会議の時間の都合もございまして、お1人3分以内を一つ目安でお願いしたいと思います。

また、御発言の際には会場の方には挙手を、オンラインの方は挙手機能にてお知らせをいただければと思います。

まず最初に、オンラインで参加いただいているのですが、この後所用がおありだということで、斉藤委員、まだいらっしゃいましたら最初に御発言いただければと思います。

## 【斉藤委員】

大下会長、御発言の機会をありがとうございます。斉藤やすひろでございます。

今回、今期、審議委員とさせていただきます、ありがとうございます。

私のほうからは、一点、観光事業を担っている現場の方々のお声といたしまして、やはりサステナブル・リカバリーといっても、ある程度時間をかけないとならないのではないかとということで、今、持続可能な形では、公的な給付金などは一時的にそれぞれの事態に応じて支出されているものの、やはり中長期的には数か月あるいは1年ぐらいのスパンをもって、そうした観光資源の再びのリカバリーというものについては、そういった時間軸も必要ではないかという声がありました。

私といたしましては、まず都民の皆様に対しまして、今、観光の現場で何が起きているかということを知っていただくことも重要でないかと感じております。特に老舗や、100年、200年といった、あるいは江戸から何百年にわたって続いてきたのれんや、そうした古い文化的なものも、この機会にコロナによって失われてしまうことは、後世の世代に対して今の世代が責任を果たしているとは言えない、そういった視点もあるかと思います。

そういったことを知らないことの恐ろしさというのがコロナ禍で起きていると思っておりますので、私は東京における観光資源の再発見というか、それを多くの都民に現状を知っていただく、何が途絶えようとしているかという危機意識を共有していただくことも重要ではないかと思っております。

今日は発言が限られている中で、このような機会をいただきました。当審議会での諮問に対する答申に向けて全力を挙げて働いてまいりたいと思っておりますので、一言、今日はそのような意見を表明させていただきます。ありがとうございました。

### 【大下会長】

3分以内ルールを守っていただきまして、ありがとうございました。

それでは、皆様方、どなたからでも結構でございます。御意見を賜ればと思いますが、会場の方は挙手をお願いできればと思います。

武内委員、お願いします。

### 【武内委員】

日本コンベンション協会の武内と申します。

私どもの団体は、名前のとおりコンベンションを中心に MICE 事業に関連する事業者が集まっている団体でございます。先ほど UNWTO による 2023 年半ばから 2024 年末の回復予測の報告もありましたが、MICE に関しては、2022 年半ばから 2023 年を V 字回復期にしたいと強く思っております。あわせて、こういった中間取りまとめで施策をまとめていただけるということもあわせて大変心強く思っております。

この間のリカバリーのロードマップを、ぜひこの取りまとめに入れていただきたく思います。ただし、これは比較的短期になりますので、中長期も念頭に置きながらつくっていく必要があるかと思っております。

海外の MICE 関係者の意見では、オンライン開催ばかりで渡航できなかった反動等で、今年度下期ぐらいから爆発的に伸びるのでないかというコメントもあり、それにも非常に期待をしております。

MICE に関してはオンラインに切り替わりましたが、現在、リアル+オンラインのハイブリッド方式でという方向に進んでおり、絶対にリアル開催は戻ってくると考えています。それにより、自治体、都市に関しても経済効果をもたらすと思っております。一方で、並行してハイブリッド開催により、オンラインも残るだろうと思っております。

ハイブリッドにより、来日、東京都に来られる方が減るのではないかということはあるのですが、オンライン開催により参加者の増加が見込まれます。こういった機会を活用して、都市の PR を盛んにすると、それが観光につながるということは可能性として大いにあると思っております。引き続き MICE に関する御支援をいただければと思っております。

あわせてなのですが、コンベンションは誘致から開催までの期間が長いものですから、コロナ禍においても、誘致活動は続いている状況なのですけれども、各国、特にシンガポールはじめ MICE を都市の大きな産業の柱としている競合国や競合都市では、より誘致に関する制度を充実させるなどの注力ぶりが聞こえてきております。

そういった意味では競争がより激しくなり、ここで止まってしまうと、どんどん遅れていくということになります。

つきましては、海外の情報も、遅れないように収集しつつ、その先を見越した施策、特にオンラインが進みますと DX 等が必要になってまいりますので、こういった要望に応えるためにも会場施設の充実のための投資等を含めて、いろいろ行政からの御支援をいただければと思っております。

また、アジアは第一次の感染の状況が比較的強く収まったということもあり、加えて、まずは

近隣の移動から先に回復するのではないかと見通されておりますので、アジアにおける連携をより強めていき、その間にも東京の魅力を絶えず発信し続けることで、MICE を通じた観光の振興にもぜひ引き続き取り組んでいきたいと思っております。あわせて都市による取組も、ぜひ強化いただきたく思っておりますので、よろしく願いいたします。

**【大下会長】**

ありがとうございました。

オンラインのほうで田村委員からも挙手があるのですが、先ほど会場から藤崎委員の手が挙がっていましたので、先にそちらをお願いしたいと。その後、田村委員、お願いいたします。先に藤崎委員、お願いします。

**【藤崎委員】**

ありがとうございます。ANA 総合研究所の藤崎です。

3分で4点ほど述べさせていただきたいと思えます。

1 つは、私どもの母体が航空会社でございまして、東京は羽田空港を抱えておりまして、これは観光の入り口、観光の拠点になり得るわけなのです。年間で羽田空港というのは、国際線も含めまして 8500 万人以上の方が御利用いただいているという状況下にあります。なので、まずは長期的にも見て、この整備といいますか、空港自体にとどまらず、その周辺の部分の整備みたいなものにも力を入れていただけたらと思っております。

2 つ目でございしますが、このコロナからの回復に向けてという点でいきますと、今、報道でも言われておりますトラベルパスです。この普及を早く東京都も一緒になってやっていただきたいなと思っております。世界的な枠組みがございまして、このアプリを入れるとチェックインもできれば入国管理もスムーズにいくという構想でございしますので、これはまさにデジタル化、衛生面に配慮したという点では、まさにここからの回復 1 年、2 年というところでは非常に必要なものかと思えます。

それと、3 つ目なのですが、これは私などよりも専門の方が今日おられるようなのですが、二、三年後を見越したときに、MICE とかああいうものを今の時期から仕込んでいくというのは非常に大切なことだと思います。ただ、残念ながら東京都というのは、シンガポールだとかアジアの諸国に MICE の誘致数でいきますと、後塵を拝している状況下にあります。そういう点では、その辺の、なぜそうなっているかというものの分析みたいなものも含めて、何か提案に盛り込めるものがないかと思えます。

それと、4 つ目ですが、サステナブルというのがキーワードになってくるわけでございまして、そういう面では、東京に来た人には、そういう心意気を持ってといいますか、自分が宿泊をしたもの、何か東京で消費したものが、そういうサステナブルのための寄附に回るような、そういう心をくすぐるような施策みたいなものを仕組み上つくってもいいのではないかなと、向こう 5 年ぐらい見たときにはそう思います。

以上です。

**【大下会長】**

どうもありがとうございました。

先ほどの武内委員からも出ていた話と同じような御意見が出ておりました。

オンラインのほうが手が挙げやすいみたいなのがあるので、しばらく会場の皆さんはお待ちください。順番に並んでおまして、まず、田村委員、お願いいたします。

#### 【田村委員】

都議会議員の田村でございます。

私からは一言で言うと、エリア的に多摩地区、特に西多摩地区への観光の強化をお願いしたい。もう数字にも出ていますが、3000万人訪日があって、そのうちの1500万人が東京都に来ていて、そのうちこの多摩地区、西多摩地区にどれくらい来ているのかといたら本当にわずかだと思っております。非常にもったいないと思います。

都心部にはこの1500万人の方たちが回遊されていると思うのですが、文化とか歴史とか自然のあるこの西多摩地区に来ていただくことで、東京都内で全ての観光の要素が楽しめる。東京全体にとっても必ずプラスになることだと思っています。

そのためにも、まず西多摩地区への誘導、例えば、ここで新宿の駅周辺が再開発になると思いますけれども、それを切り口に多摩地区、西多摩地区への交通網の整備とか受入れの体制をしっかりと強化していく。このことが東京の、今、外に出ていってしまっている、非常にもったいない観光客の方、観光のチャンスを東京に取り込む一番の近道だと思っています。

以上です。

#### 【大下会長】

どうもありがとうございました。

去年の11月ぐらいにあきる野のほうに行ったら、都内よりもかなり人が多かったという、みんな自然の中だから出向いたのかなという状況がありましたけれども、さらにという御意見がございました。

引き続き4人ほど手が挙がっておりました。次は森村委員、お願いいたします。

#### 【森村委員】

森村でございます。発言の機会をありがとうございます。

私からは、今回のコロナ禍の中で、都県境をまたいだ移動の自粛、これが行われることによって、実は「もっと Tokyo」という Go To トラベルの派生版のようできてちょっと特色のある施策が行われまして、都民の都内旅行を促進するという取組が東京都の中で行われました。

結果、実は都民が意外と東京都内のことを知らなかった。あるいは旅行をしてみたら、意外と身近によい体験ができる場所があったなどの新発見が相次いだと聞いております。そういう意味では、コロナ禍におけるダメージは非常に大きかったのですが、この観光業界において、都民が都内で旅行することに一つ光が当たったことで、これを一つの機会にして、今後の観光の戦略にも盛り込んでいったらどうかと思っております。

国際的な人流が回復するまでに、資料にありましており23年6月以降、24年度末という見解もありましたけれども、それまでにできる限り国内からの誘客、それから、都民が都内で旅行をして、多摩地域や島嶼地域、もちろん都市も含めて旅行ができるということが分かっておりますので、ここにぜひ焦点を当てた22年度、23年度の施策も取組を進めていったほうがいいので

はないかと思っております。

とりわけ都民が都内で旅行するとなると、やはり日帰り旅行が多いと思うのです。手軽ですし日帰り旅行の魅力も当然あります。一方で、消費額に着目したり、あるいは東京都内の魅力を十分に味わっていただくためにも、ぜひとも宿泊をしての都内旅行というものを都民に対しても促すような施策もあわせて必要なのではないかなと思っております。

一部の有識者の方から、マイクロツーリズムに光を当てるべきであるという提言もありました。マイクロツーリズムの距離感というか定義というのはいろいろ人によって違うのかも分かりませんが、都民の都内での旅行を促進するという一つの領域を、国際的なインバウンドの話と国内からの誘客の話とあわせて、特に 22 年度、23 年度に関しては、取組を推進していったらどうかと思っております。

以上です。

#### **【大下会長】**

どうもありがとうございました。オンラインのほうで、この後、高井委員、お願いいたします。

#### **【高井委員】**

ありがとうございます。神奈川大学の高井でございます。

1 点だけ、DX の推進に対して意見を言わせていただければと思います。

東京都としても、このオンライン観光の推進など、このコロナの期間に随分されたとお伺いしているのですが、それにとどまらず、IT スキルとかそういった面での専門家派遣など、直接のお金の支援だけではなくて、教育分野での支援をぜひ続けていただければと思っています。観光庁が地域の DMO に対する専門家派遣事業をされているので、そういうものを参考にしたスキームができないかなと思っています。

御存知のように、バーチャル観光とかオンライン観光が一気にこの間普及したわけなのですが、単なるリアルにできないものの代替物としてだけではなくて、これからも、オフラインが戻ってきても続けていくべきだろうと思うのです。

武内委員の発表にもちょっと関連しているかなと思うのですが、SDGs の観点からも大勢の人を迎えることが難しい場所とか、たくさんの人が一気に来ると観光資源が劣化するような場所などはオンライン観光とすごく相性がいいと思うのです。例えば国会議事堂の中とか皇居の中なども見せることができると思うのです。そういったツアーは、規模の経済性が逆にきかないビジネスなので、小さな事業者さん、個人事業者さんなども少量仕入れで大量販売ができる、そういう新しい活躍の場だと思っています。

また、IT とかマーケティングとかコンテンツ産業みたいな、他分野の知見を持った人が、観光分野に参入することで、産業自体が、観光自体が活性化すると思いますし、一度よいコンテンツをつくれれば、掛け算のビジネスにも乗っていくので、東京都内の様々な小さなビジネスをされているところにも波及していくのかなと思うのですが、こういうときに IT スキルとかいろいろな知識というのが自分たちだけでは調達できないと。そうしたときに、ぜひ東京都のほうで専門家派遣、これもリアルにしなくても、オンラインでも派遣ができると思います。

そういったところから、今、せっかくコロナの下で生まれた新しいタイプの身体的な移動を伴

わなないものも引き続き支援していただくことが、結果的には東京都の観光の魅力を増すのではないかなと考えております。

以上です。ありがとうございます。

#### 【大下会長】

どうもありがとうございました。

今、オンラインのほうが続きましたので、ここで会場のほうから、先ほど手が挙がっておいりました山本委員、お願いいたします。

#### 【山本委員】

MPI の山本です。

MPI は、Meeting Professionals International と申しまして、アメリカのダラスに本拠地があります。MICE の関係者が約 1 万 7000 人所属している、世界最大規模の国際非営利団体です。今日は MICE の立場から少しお話しさせていただきたいと思います。

特に武内委員が国際会議のことをおっしゃってくださいましたので、私のほうでは、企業が行う M と I、Meeting と Incentive をお話しさせていただきます。

M と I が戻ってくる時期ですが、グローバル予測では大体 2022 年 4 月以降、2023 年に向けてというのが主流の意見となっています。地域は一般観光と同じだと思いますが、東アジア、東南アジアといったバブルトラベル圏、その後、オーストラリア、そして欧米と戻ってくると言われています。

M、I の M の場合は、オンラインとかハイブリッドというのは考えられますが、こと Incentive となつては、やはりリアルでの開催ではないと効果が出ないと言われていています。オープンになったら、M、I は間違いなく戻ってくると思います。そして、戻ってくる時というのは一気に戻ってきますので、逆にホテルが取れなくなるなど出てきますので、それに備えて今は準備していくときだと考えています。

今日は私から 3 点、今だからこそやっておくべきこととお話しいたします。

まず 1 つは、先に戻ってくるアジアを中心に PR、プロモーションをやっていくというのは必須だと思っています。デジタルマーケティング、SNS、オンライン商談会、オンラインツアーなど、やはりシンガポールやバンコクがここは随分先を行っていますので、同等レベルで積極的に行ってほしいと思います。

M、I の場合は、昨今、リードタイムが非常に短くなってきているのです。3 か月前でも予約が入ってくるようになってきます。本当に東京が良いプロモーションをすれば、今まで考えたところからシフトして、やはり東京でやろうというように途中からでも変わってくるようになる可能性もあります。まずはプロモーション活動をお願いしたいです。

そして、2 番目には正しい情報発信をすることが必要だと思います。

東京は安心・安全で衛生的な都市だというアピールがすごく重要だと思うのです。一昨日の 5 月 19 日、ニューヨークが 1 年 2 か月ぶりにレストランや小売店に対しての人数制限をなくしたという報道がありました。あわせてワクチンの接種を完了した人は、屋内でもマスクはしなくてもいいという事になりました。それでもニューヨークの感染者数というのは、今でも 2,000 人前



後なのです。東京はまだワクチン接種はそこまで進んでなくても、感染者数はニューヨークよりも断然低い。このような情報を MICE 関係者あるいは主催者の方、それを扱っている海外のエージェントさん、そういったところにワンストップでうまくちゃんと情報発信できる体制が必要です。やはり日本のメディアばかりを見ているとどうしても悲観的な発信が多くなるのですけれども、リアルな情報というのを伝えられる情報発信の仕組みが必要かと考えます。

3 番目は、魅力的なコンテンツを今こそ開発していこうという事です。都内にはまだまだ魅力的なコンテンツ、施設であったりアクティビティーだったりユニークベニューがあると考えます。世界の MICE トрендというのは、今、もちろん安心・安全というのが一番ですけれども、それ以外に分散化、小規模化、例えば郊外とか自然、アウトドア、オープンエアー、そしてサステナビリティ、SDGs、ウェルネスというようにトレンドが続いてきているのです。大都市である東京は、どうしても密になるというイメージが強いですので、そこを何とか、もっと緑がいっぱいあるよという発信が必要です。東京には本当に緑が多いと思うのです。そしてオープンなエリアもあります。

例えば、以前、私が企業のプランナーだった時から使ってみたいなと思っていたところに、東京プリンスパークタワーの宴会場上の芝生の公園があります。場所は、増上寺の横のプリンスホテルです。あそこの公園は、プリンスホテル所有ですが、実は東京都の公園整備事業の一環として整備されている公共公園のため、占有などはできない決まりとなっており、東京都管理下の公園になっています。目の前に、東京タワーあって、素晴らしいところなのですが、そこは企業イベントとしては使えないのです。こういったオープンエアーの場所はパーティーにも使えますし、コーヒブレイクにも、朝のウェルネスのヨガにも使えるので、是非こういう場所の洗い出しをもう一回していただいて、コンテンツの磨き上げを今やらなければならないかと考えています。

あとはサステナビリティガイドラインというのは東京都も作られていますので、そのサステナブルやウェルネスの観点も入れたコンテンツ開発をどうぞよろしく願いいたします。

以上です。

#### **【大下会長】**

ありがとうございました。

それでは、今度はオンラインのほうで河村委員、挙手がありましたのでお願いいたします。

#### **【河村委員】**

三鷹市長の河村です。

市内に三鷹の森ジブリ美術館を持っている市でございますが、私が感じたのは、今回の新型コロナウイルスの問題で、2 通りあって、山で言えば頂上の部分の大きなホテル産業、観光産業の問題と、街中の都市型環境の裾野の問題というのは、今回の件でかなり分裂して出てきている。大きなところも小さなところも共通しているのは、もちろんのことですけれども経済的な状況が厳しくて、先ほど会長さんがおっしゃったような老舗の店も含めてばたばた倒れている状況です。大型のホテルも、今年度限りで店じまいになるという有名なホテル、近隣の自治体でもそういう事例が出てきています。

ですから、そういう人たちにとって、飲食店もそうですけれども、この二、三年たてば確かに回復するのは目に見えているし、ひょっとしたらV字型の形でいくかもしれません。しかし、それまでに、都議会議員さんもちよっとおっしゃっていましたが、カンフル剂的に、やはり戻ってきた観光客の人たちを受け入れるための仕組みづくりというのは大変重要になってきます。

その上で、実際に観光客の方たちが戻ってきたときに、お店が全くない、それを支えるホテルがない、そういう状況にならないようにしなければいけないと思っています。

観光資源の裾野の問題で言うと、私たちが痛感しているのは、それを支えているボランティアの人たち、草の根の人たちが、例えば三鷹市だけではなくて近隣の自治体でも、恐らく観光協会というような形、あるいは市民の人のボランティアガイドみたいな人たちをたくさん抱えています。その方たちも、今、あまり密集して話し合いなどができないような状況でありますので、そういう人たちもひきこもりになって街に出ていかなくなってきている。それを何とかしなければいけないという問題もあります。

ですから、「支える仕組みづくり」、「支援づくり」を考えるのと、その後、アフターコロナでどんな観光をやっていくのかということも2つ、しっかりと見据えていかなければいけないと現場では思っています。

今回のコロナ禍の中では、私たちが現場で見ているのは、先ほど東京都内でいろいろな観光資源があるというような御指摘がありましたけれども、それだけではなくて、三鷹市内は非常に小さいですけれども、市内の中の公園、あるいは町の中の商店一軒一軒に、いつも勤めていらっしゃる方たちは、御家族で市内の公園で遊んだことがないということが実はあって、新しい発見で日々送っているという状況です。

そういう意味で、市内でもそうです、都内であればもっとある、たくさんの観光資源がある、それをこのアフターコロナあるいはウィズコロナの中でしっかりと発見していく、そういうことも、各自治体だけではなくて、市民、都民の皆さんが抱えている大きな次の道筋ではないかと思っていますのでございます。

私からは以上です。どうもありがとうございます。

#### 【大下会長】

ありがとうございました。

それでは、引き続きオンラインのほうで田口委員から挙手がありましたので、お願いいたします。

#### 【田口委員】

ありがとうございました。田口です。どうぞよろしくお願いたします。

私は日本パラリンピアンズ協会の副会長を務めておりますので、ユニバーサル、バリアフリー、アクセシビリティという観点から御質問とかお話をさせていただきたいと思っております。

まず、2019年に東京都は、東京都建物バリアフリー条例を出していただきまして、バリアフリーの部屋、それはバリアフリールームという部屋ではなくて、一般的にホテルの部屋を、全て段差をなくそうというのです。その条例を進めていただきました。それをもって、現在で、果たしてどれぐらいユニバーサルルームも含め、あと、バリアフリーのそういう部屋を含め、増加率

などをぜひ検証していただきたいと思うのです。

これから東京だけではなく日本は高齢化社会で、世界各国の主な都市とかも高齢化社会に進んでいますので、バリアフリーという観点はとても重要だと思いますので、そういうのをまず東京がトップとなって検証・確認をしていただきたいと思います。

今年 1 年、東京オリンピック・パラリンピック開催が延びまして、今年の 8 月にはパラリンピックが開催されます。これから観客がどう入るのか、無観客になるのか、半分になるのかという部分があって、これがすぐというわけにはいかないのですけれども、例えば東京の渋谷区の代々木体育館の前に、渋谷駅から代々木体育館に行く横断歩道が実はないのです。歩道橋があります。ただその歩道橋にはエレベーターがないです。パラリンピック開催中は、横断歩道を仮設で造ろうということになっています。実際は 200 メートルぐらい離れたところにしかないのを、そこに仮設を造るのです。ぜひ、今後、仮設ではなくて、どのように終わった後につければいいのかということ、もしかするとそこに横断歩道をつけると、交通量が多いので危険なのかもしれないのです。そういう場合は、歩道橋にエレベーターを造るだの、そのあたりも今回のパラリンピック開催を機に検討していただければと思います。

あと、このユニバーサルルームのほうのお部屋の話に戻りますと、これは東京都だけではなくて、ほかの県に私が宿泊するときに、某大手の旅行会社にバリアフリールームを取ってくださいとお願いしたのです。実際、ホテルに行きましたところ、バリアフリールームではなかったのです。段差のない部屋ではありましたけれども、バリアフリールームではありませんでした。

私は手が大丈夫なので、段差がなければその部屋は使えるのですけれども、私がお願いしたのはバリアフリールームなのです。ですので、バリアフリールームと、そういう段差がないという部屋という部分を、ぜひプロの旅行会社の方も、多分そのあたりが分からないというのがそこで分かりましたので、東京だけでなく日本全国で必要なのですけれども、統一見解というのをしていただきたいなと思います。

繰り返しになりますけれども、私は手が大丈夫だったからその部屋を使えたのですけれども、もし、手にも障害のある人がその部屋をアサインされてしまったら、もうその人らはできないのです。そうすると、その人は、その日どうやって泊ったらよかったのかとなりますよね。そこをぜひ、皆様、旅行会社様、今日も御出席されていますけれども、東京都がぜひ先陣を切って統一見解というのをつくってもらえればと思います。

パラリンピックが開催されるようになって、今回は、このコロナ禍で選手たちは基本的にはすぐ帰ってしまうのですけれども、普段だったら選手たちは自分たちの大会が終わったら、都内、その開催都市を旅行したり観光したりするはずだったのです。開催が決まって、すぐに私は東京都の大手のバス会社のリフト付バスはどれぐらいかなと思ったら、そのときリフト付バスがゼロ台だったのです。おととして 1 台になったとは聞いていました。

ぜひこのリフト付バスも、本来はパラリンピック開催を機にと言いたかったのですけれども、そのときにはもう間に合わないと聞いていましたので。ただ、これからやはり高齢化社会が進むわけですので、そういうリフト付バスの導入も後押ししていただければと思います。

そして、このコロナ禍で選手たちが先ほど出られないというのも申し上げたのですけれども、

選手たちは、開催された都市にまた来たいと思う選手がやはり多いので、選手村の中で東京都の観光の動画を流すとかバリアフリー情報を流すとか、そういう工夫をすればまた戻ってくるかなと思っています。

皆様が先ほどからオンライン、オンラインというところをおっしゃっていたので、その部分については、東京都の観光サイト、GO TOKYO を見てもユニバーサル情報につながるページがないのです。私は見つけられなかったです。ぜひユニバーサルというトップのアイコンなどを作って、そこからすぐにユニバーサル情報に入れるようにしていただきたいと思います。

そして、そのオンラインという部分で言えば、ホテルに今、バリアフリールームがどんどんできてはいるのですけれども、実際にホテルのオンラインの予約サービスではバリアフリールームが取れないことがほとんどです。バリアフリールームについては、直接ホテルにお電話してくださいとなっているのです。飛行機とかでも席が取れるわけですから、ここもやはりオンラインでできることが前提となってくると思います。訪日外国人がわざわざホテルに電話するかというと、そうではないですので、そこを含めて東京都がそういうところをバックアップしていくとか、そういうホテルに関しても、段差のないことをホームページで出すとか、バスルームと寝室部分の段差がよくあるのですけれども、そこがどのようになっているかというのもネットで分かるような状況にしていきたいと思います。

先ほどから皆様が MICE のお話をされているのですけれども、MICE に参加される方々、みんなアクセシビリティが必要な人が全部関わってくることなのです。ぜひそこも含めてであります。

また、観光についても、先ほどから区市町村の区長様、市長様、町長様、また、都議会議員の皆様、いろいろおっしゃってくださっているのですけれども、私たち車椅子ユーザー、コロナ禍で郊外に行きたかったけれども、郊外がバリアフリーモードではなかったのも、どうやっていけばいいのかなと思いました。ぜひバリアフリーについても、駐車場の整備とか送迎バスのリフト付とかについても一緒に御検討いただければと思います。

長くなってすみません。よろしく願いいたします。

#### 【大下会長】

熱く語っていただきましてありがとうございます。お受けして計画に反映させるように努めたいと思います。

オンラインが続きましたので、会場のほうからお願いいたします。

#### 【渡辺委員】

JR 東日本の渡辺でございます。

私自身は、東京というのは日本最大の観光地でもありますし、コロナ後であっても変わらず世界有数の観光地であり続けるであろうと考えており、この魅力は変わらないと思っています。

一方で、やはり旅行に関する消費者のニーズや常識は変わってしまうと思いますので、コロナ後の新常識における新しい東京の魅力をつくり上げて発信をしていくということが必要だと思っています。

まず、その新しい魅力の大前提としては、安心・安全、感染防止対策がしっかりなされており安心して楽しめる都市観光の実現が必要だと思っています。私ども公共交通機関として、通勤電

車それから新幹線を含め、しっかりと衛生対策をして安心してご利用いただけるよう努めております。そういった公共交通機関や公共施設、あるいは町の飲食店等を安心してご利用いただける体制、そして地域住民の方が衛生対策もしっかりしてお迎えする体制を築き、それを発信するという事です。先ほど山本委員のお話もありましたけれども、東京がそれを先進して、世界一取り組んでいる都市であることをしっかりと発信をしていくことが必要だと思います。

そのため、安心の東京ブランドを築き上げるためのご提案とお話を4つしたいと思います。

1つ目は、やはりデジタルの活用です。今後観光客が戻ってくると恐らくまたオーバーツーリズムという課題が出てくると思いますので、そういったところにはやはりデジタルを活用し、完全予約制の導入や混雑状況が見える仕組みづくり、また様々なアプリ等を使って人数の平準化を図っていくことが必要です。一方で受け入れる人数を制限すると小ロットの観光になってくるため、なかなか消費額が上がらないことにもなります。そのために単価を上げ、いただく対価を上げるということ、つまり付加価値を高め満足度の高い観光コンテンツをつくっていくことが必要だろうと思います。

2つ目は、都市観光の魅力に加え、ニューノーマル時代には、自然、アウトドア、ウェルネスも含めてそういったものが大きなコンテンツの魅力になるということです。西多摩エリアと都心の魅力を組み合わせること、そして周辺の県や自治体との連携も必要だろうと思います。そういった意味では、この関東首都圏エリアは世界の中でも鉄道網がしっかりと整備されており周遊しやすい環境なので、周辺のエリアとの連携、広域観光で魅力を打ち出していく必要があると思います。

そして、3つ目は医療機関と観光分野の連携です。安心してご旅行いただける受入環境整備が必要です。特にインバウンドの方や言葉の通じない方が災害のときに必要な情報を入手できること、また医療の面でも連携ができており安心して滞在いただける旅行地であることが、これからのニューノーマルの時代には求められるだろうと思います。

最後の4つ目はレスポンスブル・ツーリズムであり、今よく言われている言葉であります。「責任ある観光」ということになりますでしょうか。当然のことながら迎える側もウェルカムマインドを持つことが必要です。その上で観光を通じて、地域社会と環境もよりよくなっていく旅行者と地域社会との新しい関係づくりをぜひ東京都が率先して新しい時代の中で実現していくべきです。官民を挙げて、また観光は裾野が広いものですので観光事業者だけではなく様々な関係する皆さんと一緒に、新しい東京の観光モデルをこの2年間で作り上げてまいりたいと思います。よろしくお祈りします。

#### 【大下会長】

ありがとうございました。

それではオンラインでまた入っておりますので、お待たせいたしました、三辻委員、お願いいたします。

#### 【三辻委員】

大島町長の三辻です。どうぞよろしくお願いいたします。

よく伊豆諸島、小笠原諸島は東京の宝物と言われております。まずは島にとっても、コロナ禍

による社会経済活動を回復させるためには、一人でも多くの来島客数を確保しなければなりません。

観光産業は裾野が広く、商業、農漁業、公共事業など、社会経済活動を支える役割が大きい、経済成長、即応性の高い産業として島では捉えています。

あと、このコロナ禍は、社会の在り方を変えるほどのインパクトがあり、人々の観光への価値観も大きく変わりつつあります。コロナ禍の時代、観光再生をするためには、今以上に旅行形態も少人数、分散型が主流となってくるため、以前からも大島なども言われていましたが、数の観光から長く滞在してもらい、繰り返し来てもらうという、いわゆる質の観光への転換が重要となります。そのためには、旅行客を引きつけるブランド力、この魅力を開発することが重要かと思っています。

大島に限って言えば、伊豆大島ジオパークを活用し、様々な手法により地域の経済活動と結びつけながら、地域資源、魅力を分かりやすく伝え、巡り、味わい楽しめる環境の整備を図ることが有効です。

それと、年々増加傾向にありますサイクリストの満足度を高めるために受入れ環境の整備と誘致を促進しているところであります。

最後に、ちなみに、コロナ禍の前と後、大島で言えば2019年と2020年の観光客数を比較しますと、10万9000人ほど減少しています。これを観光損失額、いわゆる島に落とすお金を推計しますと、本当に荒っぽい計算で約17億6500万円程度となります。人口7000ちょっとのこの島の中で17億6500万の損失額は大変大きなものとなっています。まずは皆様の力をお借りして、観光客数を一人でも多く確保したいという狙いがあります。

以上です。よろしくお祈りいたします。

#### 【大下会長】

ありがとうございました。

引き続き師岡委員、お願いいたします。

#### 【師岡委員】

奥多摩町の師岡でございます。よろしくお祈りいたします。

先ほど来、若干オーバーツーリズムという言葉も出てまいりましたが、緑に囲まれた私どもの奥多摩は、観光地として、現状を皆様にお伝えすることで、今回の提案、プランに組み入れていただければありがたいと思っております。

先ほど JR 東日本の渡辺委員さんからもお話がありまして、私どもの奥多摩、そして近隣市町村を加えて、今、JR 東日本さんと民間企業さんが協力をし合いながら、この広大な町を一つのウェルカムゾーンとしてやったらどうかという事業も進めていただいております。

渡辺委員さんから小ロットの付加価値、そして客単価というお話がありましたが、やはりオーバーツーリズムで多くのお客様を迎えるということがなかなか難しいということが、今回、この1年で分かりましたので、こういう事業を積極的にしっかりと進めてまいりたいと思います。

地元の宿泊業をやっている事業者さんも、母屋を改築するということはなかなかできないのですけれども、私どもでなくても過疎地は過疎対策で大変なときを迎えていると思うのですけれど

も、例えば母屋とサテライトの部屋という形で事業を推進することも、これからの奥多摩町に課せられた課題、事業者さんの課題かなと思っています。

まさしくリラックスタイムを提供するという一方で、コロナ禍の前まではインバンドのお客様も相当いらっしゃってくださったのですけれども、このコロナ禍明けに、そういう皆様にまたお越しいただける環境をぜひつくっていただきたいと思います。

お客様を迎え入れると同時に、どうしてもやはりモラル、マナーというものがここで浮き彫りにされましたので、今回のプラン、提案の中に、ぜひともモラルを維持するための啓発事業のようなものもぜひ組み込んでいただければありがたいかと思えます。

今、こうして私はここで参加させていただいていますけれども、左側を見ますと本当に緑がいっぱいで、窓を開けますと下に日原川という川が流れています。そういうところで仕事をさせていただいています。東京のいろいろな顔として、引き続き私たち奥多摩町の魅力を一生懸命発信することに努めてまいりますので、またこの事業に一生懸命参加させていただきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

#### 【大下会長】

どうもありがとうございました。だんだんと与えられている終わりの時間が近づいて参りました。まだ会場で発言いただいている方は。

では、先に白石委員、お願いします。

#### 【白石委員】

日本航空の白石でございます。

私から1点、お伝えさせていただければと思います。

先ほど、大下会長、高崎副会長から言及していただいておりますサステナブル・リカバリー、観光の受入れ環境の裾野を広げていく、広く利益をシェアしていく、これらは大変重要な考え方だと認識をしております。

当面、海外からの航空需要、航空会社の路線便数、これは海外の航空会社も含めてですけれども、東京、首都圏の路線を中心に戻ってくると考えております。何を申し上げたいかと申しますと、当面海外からいらっしゃる方々は一度東京にいらっしゃるということです。このような中で東京のみ一極集中しますと、先ほども言及されていらっしゃいましたけれども、東京が混雑すると密になる、宿泊費も需給の関係で高騰していく流れになりかねません。そうすると次に想定されるのは、日本を忌避する動きにつながりかねないと考えております。

先ほど三鷹市、奥多摩町、大島町からもお話がございましたけれども、我々はこれまで以上に都心、首都圏の魅力とあわせて、首都圏近郊、さらには地域の魅力を発信して、人流を分散させていく必要があると考えております。

このように人流を分散させることで、日本全体の観光のキャパシティを底上げする。これによってより多くの訪日旅客の方に東京をフルに楽しんでもらいたい。こういう流れを、我々もできる限りの協力をさせていただきたいと思っておりますので、ぜひ御検討・御対応いただければと思っております。

私から以上でございます。ありがとうございます。

**【大下会長】**

ありがとうございました。

それでは、原田委員、お願いいたします。

**【原田委員】**

4点ほどです。

まず、コロナ禍でダメージを受けている観光事業者の実態の分析は必要かなと思っています。先ほども町とか市長、議員のほうからは、そうした厳しい実態というものも語られました。これはやはりこの観光審議会の中でも分析する必要があるのではないかと思います。

こういう御時世ですので、とりわけ観光業者の事業継続支援についても、観光審議会としても言及していくべきではないかと考えたりもします。

2点目で、国連世界観光機関、UNWTOによる、コロナ禍後の回復シナリオについてなのですが、感染状況とこのシナリオは密接な関係がありまして、特に今年から来年にかけては全てのシナリオが上がっていくということになっているのですけれども、中小の観光に携わっている方々、もう瀕死の状況と言ったら失礼かもしれませんが実態でして、悲観的なシナリオも想定して、改めてそうした事業者への支援というものも言及していく必要があるのかと思いました。

それから、インバウンドに傾斜した施策というものを、もうちょっと国内旅行やマイクロツーリズムへの検討などもしっかりとやっていってもいいのではないかと思います。私が住んでいる杉並区で言えば、阿佐ヶ谷、高円寺、西荻など、訪都旅行者に人気の高まっている、いわゆる昭和のムード漂う地域の注目が集まっていると思います。高まってきていました。ですので、こういう町が、実は阿佐ヶ谷とか西荻も、今、一様に駅前開発とかで大型開発の流れの中で失われようとしているというのは問題でして、もうちょっとこういう町が大事だというまちづくりにも言及していくというのも大事なのかと思いました。

最後になりますけれども、ワクチンによる集団免疫の獲得も、ゲームチェンジャーという人もいましたけれども、すごく重要なのですが、しばらくは検査体制の強化というのも、観光業復活の味方になるのではないのかなと。観光や MICE を優遇して検査するというわけにはいかないと思うのですけれども、そもそも都民、国民が検査を無料で頻回にわたって受けられる体制は、安全・安心な日常生活、観光のような非日常生活にとっても必須だと思っています。そうした行政への注文というのも、この際言及していってもいいのではないかと思います。

以上です。

**【大下会長】**

ありがとうございました。ほとんどもう時間が。まとめのほうに入りたいのですが、最後になりますけれども、新津委員、遅くなりましたが挙手があったということですので、お願いいたします。

**【新津委員】**

ありがとうございます。



私からはインバウンド観光について、3点お話しさせていただきます。

1 点目は観光に取り組む目的についてです。観光は多文化交流、多文化理解を通じて、世界の平和と発展につながるということを最大の目標にすべきだと私は考えています。

これまでは地域活性化、経済効果に注目が集まり、私たちも取り組んできました。しかし、今回のコロナ禍を通じて、産業としての重要性を実感するのに加えて、国際交流とか世界平和の重要性を実感したと思っています。

基本戦略においては、上位の視点として、観光の役割というのを設定すべきと考えます。

2 点目に、観光を担う主役についてです。

これまで訪日ゲストの満足度向上には、事業者を中心に取り組んできました。しかし、一般都民の理解や参加も重要な主役だと思っています。オリンピックの開催方法の変更によって、国際交流とか観光のすばらしさを都民が実感する機会が残念ながら失われてしまいました。これからは学生・生徒やシニアにおいて、教育啓蒙とか参加のきっかけづくりをするなど、都民が参加する、理解をするということが重要だと思います。オーバーツーリズムの観点からいっても重要ではないかと思います。

3 点目、最後に、私の専門分野であるショッピングについて、観光戦略の重要コンテンツの一つに位置づけるべきだということをお話しさせていただきます。

買物消費は、観光における消費の4割を占める最大のセクターです。また、訪日ゲストにとっても重要なコンテンツです。これを踏まえると、戦略において重要コンテンツに位置づけるべきだと考えております。国際観光客の獲得というのは、東アジア、東南アジアでも非常に熾烈になっていて、シンガポールや中国の海南島にも代表されるように、国を挙げてショッピングを戦略コンテンツとして位置づけるような国もありました。

そんな中で、日本の企業においても、メイドインジャパンの商品や伝産品さえも上海やシンガポールで売ればよいという戦略に転じる会社さえあります。

従前も免税店支援などの個店支援が行われてきましたけれども、一段上位の、特区などを活用した国際競争にも勝てるレベルのコンテンツに引き上げるということも検討すべきだと考えております。

東京を世界三大都市に位置づけていくためには、これからも必ず戻ってくるインバウンドを活用して、コロナにひるむことなく強気の攻めの姿勢を忘れずに戦略を組み立て、官民連携で取り組んでいければと考えます。

私からは以上です。

#### 【大下会長】

どうもありがとうございました。

そろそろお時間となりましたが、意見をいただいていないのですが、オンライン上で中山委員と伊与田委員から発言がなかったのですが、もしございましたら挙手をお願いしたいと思います。なければ終わりにしたいと思います。

それでは、最初に中山委員のほうから挙手があったようでしたので、なるべく簡潔にお願いします。

### 【中山委員】

もう終わりに近づいていますので、端的に言いますと、台東区は浅草と上野を抱えている区なのですが、地元の声を聞くならば、やはりお年寄りの方々が町に出てきていないということで、大きな観光の打撃になっているわけであります。

一般的に見ても、お年寄りのほうがお金をある意味使っていないわけですから、貯めているわけなので、まずはインバウンドの前に、このアフターコロナを見据えて、お年寄りのニーズというものをもう少し把握して、それを政策に反映していくということがまずは大切なのではないかと思いますので、私の意見として言わせていただきます。ありがとうございました。

### 【大下会長】

ありがとうございました。

それでは、伊与田委員、お願いいたします。

### 【伊与田委員】

日本政府観光局の伊与田でございます。

お時間が限られておりますので、一言だけ発言させていただきます。

私どもはインバウンドプロモーションを専門に行っている組織でございます。海外では先ほどもお話がありましたように、日本の人気につきましては、今はインバウンドはなかなか難しい状況でございますが、引き続き健在でございます。

入国制限の解除の見通しというのはなかなか立ちづらくて、回復の時期というのが見えない部分はございますが、それぞれの市場で、国境が開いたら日本に来たいというような形で考えていただいている方、非常に多いという形で、声が聞こえてきておりますので、ぜひ、制限解除後に日本を選択していただけるような、興味、関心を維持するための情報発信については継続をしていただきたいと思います。

先ほど、各委員のほうからもキーワードとして上がってきました自然とかアウトドア、サステナブルな旅というのは、海外でもコロナ後の大きなトレンドになっておりますので、そういったコンテンツについて、磨き上げを、この機会に国内向けも含めてしていただいた上で、積極的に御一緒に発信していければと考えております。

また、海外の旅行会社さんは、コロナ後に商品のラインナップを見直して、再度打って出ようというお声を多くいただいておりますので、BtoB のビジネスの情報発信などについては、プロモーションのデジタル化も含めまして、私どものほうでも海外旅行会社の視察をバーチャルで行いました。商談会をオンラインで実施するなどの取組を行っておりますが、消費者向けよりもいち早く行うことでV字回復につなげられるのではないかと考えてございます。

限られたお時間の中で、お時間をいただきましてありがとうございました。

以上です。

### 【大下会長】

ありがとうございました。

それでは、お約束の時間になりました。少しまとめをしたいと思いますので、5 分か 10 分ぐらいお時間をいただければと思っております。

最後になりましたけれども、副会長から一言お願いいたします。

#### 【高崎副会長】

皆様、ありがとうございます。

今いろいろな御意見を伺いしております、一つとても重要なのは、スピード感を持つということではないかと思いました。アフターコロナ、ウィズコロナを考えましたときに、世界各国でキャンペーン合戦が起こることは間違いないと思います。感染が落ち着くということは当然大前提なのですが、できるだけ世界に出遅れないためにも、皆様からもありましたように、東京というのはやはり一大ブランドです。日本誘客というところに非常に大きな役割を持っていますので、注目度を上げておく。東京を中心にPRすることでアジアの競争に打ち勝つべきだと思いました。

また、一つ、少し違う視点ですけれども、観光施策のステージを上げていく必要があるのではないかなど。いうなれば、観光戦略1.0が今であるとすれば、それを観光戦略2.0に上げるということ。環境整備とか情報発信、これも引き続き必要なことではあるのですけれども、大事なものは、観光事業者のサステナブルな事業、具体的に言いますと、観光コンテンツの磨き上げとか作り出しということはもちろん重要なのですけれども、そこから一歩進んで、その商品化だったり単価をどうやって上げるのだということであったり、コンテンツをつくったものをどう商品化をして満足度を高めて、継続してやっていってもうけられるのかと。そういったしっかりとした輸出産業として考えていくということが必要だと思えます。

そのためにはやはり施策も継続的なハンズオン支援というのがどうしても必要で、せっかくの観光施策をやり切っていないということがあるのではないかなど。結果を出すということを最重要視するべきではないかなど、皆様の御意見をお聞きして改めて思いましたので付け加えさせていただきます。会長、ありがとうございます。

#### 【大下会長】

まとめていただいてありがとうございます。

それではお時間になりました。皆さんから貴重な御意見をいただいたことにまず感謝申し上げます。また、発言がまだ全然足りないよということはあるかと思えますけれども、そのあたりについては、時間の関係で短くまとめていただいたことに感謝申し上げたいと思えます。

私からは、今の2点に加えまして、3つまとめておきたいと思えます。

まず1つ目は、皆さんからいただいたものは、これまで取り組んできたことについて、これこれでは済んだことであるということではなく、それをしっかりと検証して継続してほしいということです。必要なものについては継続してほしいということが、特にバリアフリーであったり、今回は話は出ませんでした。観光危機管理の話であったり、必要最低限のものは幾つかあると思えます。

また、それと同時に、コロナにおける観光産業等への影響についても、この場で審議するかは別といたしまして、分かりやすく実態を整理しておいて、それを踏まえた上での計画であるということのエクスキューズはしておいたほうがいいであろうということの御意見をいただいたのではないかと考えているのが1点目でございます。

2点目は、今だからこそ進めておくべきこともたくさんあるだろうということで、将来に向け

てV字回復していくときに対応していたのでは遅いような分野、例えばMICEであったりということで、より具体的なお話をいただきました。

あるいはマイクロツーリズムという中で、それをどうこれから磨き上げをかけていくのか、先ほど副会長のほうからも御意見をいただいていたような内容でございます。

特にデジタル化というものについては、すぐにはできないわけですから、デジタル化をうまく有効活用していきながら、今できることを今やっておく、V字回復した後に対応するというのではなく、それを見据えた上で、今やるべきことをやっていきたいと思いますといういろいろお話をいただきました。

さらには限定された話の中で、今日、御意見をいただいておりますので、まだまだ言い足りないよという委員さんはたくさんいらっしゃるかと思いますので、またそういうことがありましたら、事務局のほうに御提言等をいただければと思っております。

そして、最後3つ目でございます。

将来的なことを考えていくと、22次の審議会での話の中でも少しお話をさせていただいたのですが、この計画そのものは、東京都観光産業振興実行プランという形になっております。これをどこで切るかによって、両方の意見が出てくると思うのです。

東京都観光産業を振興していくのか、東京都観光を産業振興していくのか、切る場所によってはものが変わってきます。当然ながら観光面で進めていらっしゃる観光産業の振興はあってしかるべきなのだし、それがなければリードしていただけないことは事実でございます。しかし、東京都観光というものを基に産業振興も図っていこうということになると、今日お話をいただいた市町村長の委員さん等をはじめといたしましてマイクロツーリズムの話、あるいは地域の観光の担い手の話をされていた委員さんからの御意見をまとめ上げると、東京都の観光というものを基に地域が連携を図っていきながら、多様な主体が関わるような形で、持続可能なものへと展開していきたいというような将来的な展望もいただきました。

その2つの観点で、今回も、将来的には展望を図っていくということをぜひ御検討賜ればと思うところがございます。

以上、駆け足となりましたが、皆様方におかれましては、まだまだ話し足りないということもございました。しかし会議も長引くとよくない、スピード感を持って進めたいということもあろうかと思っておりますので、現時点で審議のほうはこれで終わりにしたいと思っております。

特に、今回はそれぞれの専門性のある御意見をかなりいただきましたので、事務局におかれましては、各委員さんの御意見を傾聴いただいて、プランにできる限り反映をしていただくように努めていただければと思っております。

皆さんどうもありがとうございました。それでは、審議についてはこのあたりで終わりにしたいと思っております。御協力ありがとうございました。

事務局より何かございましたらお願いいたします。

#### 【築田観光部長】

委員の皆様、本当にどうもありがとうございました。

次回の開催につきまして、観光産業振興実行プランの中間のまとめを発表した後の12月頃を

予定しておりますが、それまでの間も、適宜、プランの策定状況を委員の皆様にご報告させていただきます。御助言を賜ればと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

**【大下会長】**

どうもありがとうございました。

若干時間をオーバーいたしました。最後に村松局長から一言お願いをしたいと思います。

**【村松産業労働局長】**

産業労働局長の村松でございます。

委員の皆様方には本当にお忙しいところを御出席を賜りまして、本日は誠にありがとうございました。

それぞれのお立場から貴重な御意見、また、活発な様々なアドバイスをいただいたところがございます。いただきました御意見を参考にさせていただいて、今後の観光の実行プランの策定に取り組んでまいりたいと思っております。

今後とも委員の皆様方には御指導、御助言をいただきますようよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

**【大下会長】**

ありがとうございました。

予定の時間が過ぎましたけれども、以上をもちまして本日の東京都観光事業審議会を終了させていただきます。

委員各位の皆様、事務局の皆様、ありがとうございました。

午後 2 時 38 分閉会